

令和7年度 前期 学校評価（教職員用）

	内容	A評価人数		考えられる原因と対策
		R6前期	R7前期	
1	児童は、「主体的・対話的に学ぼう」としている。 (教育目標)	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的に学ぶゴールの具体例がはっきりするとよいかも。自分の中にゴールイメージがしっかりとできていない。 ・児童とも共有し、振り返りをしっかりとさせ、教師も児童も意識していく。 ・研究をするしかない。がんばります。 ・まだ1学期のため、発展途上と捉えた教職員が多かったのではない。2学期に研究を充実させていければ、Aも増えるのではない。 ・学年差はあるが、目標とする姿に向けて取り組んでいる最中であり、2回目にどう変容するかが大事。 ・指導者の意識が低い。指導改善を図る。 ・子どもに委ねる時間を上手く設けられないため、計画的に設けていく必要がある。 ・児童が解いてみたいと思える課題を設定し、対話を通して問題解決ができる授業をつくっていく。
2	児童は、「心豊かに未来を切り拓こう」としている。 (教育目標)	8	3	<ul style="list-style-type: none"> ・研究をするしかない。がんばります。 ・「心豊かに未来を切り拓こう」とする姿の具体的な姿が分かれば、教職員がその姿になるように働きかけ、成果につながるのではない。 ・抽象的なため、具体的ににする。 ・具体的な姿（どうなっていたら「A」なのか）がわかると指導しやすい。 ・誠実な対応を心がけていく。
3	児童は、元気に挨拶している。(ひまわり憲法)	6	5	
4	児童一人一人の理解に努め、鍛えて伸ばそうとしている。	10	9	
5	豊かな人間性と確かな指導力向上に努めている。	9	8	
6	児童、保護者、地域住民から信頼されている。	8	5	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革もあり、保護者・地域住民と接する機会が減って仕方ない面もあるが。児童の活動や成長を発信していく。 ・来校する方達に教員も大きな声と笑顔であいさつをする。 ・分からないので、Aをつけにくい。他者からの評価を評価するのは難しい。 ・学校評議委員会で地域の方からの評価はあるものの、他の方から評価される機会がないため、教職員として地域住民からの評価を評価しにくいのではない。 ・こまめな情報発信を心がけて、信頼を得る。
7	個別最適な学び・協働的な学びを一体化した授業（単元）の確立に努めている。	5	7	
8	朝自習や栗Tや暗唱活動の指導に継続的・計画的に取り組んでいる。	9	9	
9	保護者と連携し、宿題等の充実に積極的に取り組んでいる。	7	7	
10	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善に努めている。	10	9	
11	ICT教育・英語教育に計画的に取り組んでいる。	8	9	
12	Chromebookを活用した指導に積極的・計画的に取り組んでいる。	10	10	
13	「考え、議論する道徳」の授業づくりに努めている。	6	5	
14	学校・学級の課題の解決策を実践することを通して、「主体性」を育てている。	7	9	

15	児童の人間関係づくりの充実を図り、いじめや不登校の未然防止に取り組んでいる。	10	9	
16	ベル学・黙働清掃・先挨拶の指導に取り組んでいる。	8	7	
17	夢や希望を持ちながら頑張る児童の育成に取り組んでいる。	9	8	
18	「チャレンジカード」「体力アップ1校1プラン」「スポチャレ石川」に計画的に取り組んでいる。	10	4	<ul style="list-style-type: none"> ・提案や掲示してあっても忘れてしまうことがある。その都度繰り返し呼びかけていく。 ・以前は活性化プランに位置付けられ、数値目標が設定されていたので、全校挙げて取り組むことができていた。今は楽しく無理なくする方向になっている。 ・チャレンジマラソンが休み時間になってから走る子が減ったように思うので、朝・1限後・3限後に放送でアナウンス+音楽をかけ、忘れないようにする。 ・体育委員中心で、児童が関わるイベントを恒例化する。 ・体育の準備運動としてスポチャレいしかわに取り組むなど、日常の取組にしていけるとよいのではないかと。 ・体育の授業前の5分間で走る活動をする。 ・体育的な取組が多い。 ・チャレマラの取組の見直しが必要。スポチャレを月1で取り組むことが難しい。（プール学習があるため）
19	家庭や地域等と連携して、食育・健康教育・安全教育に取り組んでいる。	9	5	<ul style="list-style-type: none"> ・つつい後回しになってしまうので、「月1回は記録を入力」を徹底していくとよい。取組内容自体は代わっていない。教師が意識できるようにしていくとよい。 ・ひまわりチェックの項目を少しかえてマンネリを防ぐ。例えば、食事内容やおやつの内容を書く（今日は朝食を書く、来月はおやつのように）。上田先生の食指導の「おやつ選び方」は、お家の人も共有したい内容でした。 ・安全教育関連で、地域・家庭と連携した取組があると良い。 ・地域と連携しての安全教育の場が少ないため、何かの行事の折に安全教育の取組ができると良いのではないかと。地区別安全指導に見守り隊の方に来ていただくなど。 ・具体的な取り組み内容を周知できていなかった。資料を見直ししていく。
20	働き方改革を意識して仕事に取り組んでいる。	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩時間の45分を見えるところに掲示し、確実にとれるようにする。昼にとれなかった場合は、退勤時間に45分足して、C4thに手入力する。 ・自分はそれなりだと思うが、持ち帰り、休日出勤があるのは否めない。 ・前例踏襲が多い。業務改善の意識が低い。業務改善チームをつくる。 ・来年度に向けて、減らしてもいい取組はないか見直しが必要。
21	校務分掌は、組織的、協働的に取り組んでいる。	8	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議を行い、組織的に児童へ対応する。 ・個による業務が多いと思う。 ・なかなか組織的に先生方を巻き込んでの取組やブラッシュアップをできなかったため、2学期は組織的に動けるシステムにしていきたい。 ・教員の人数が少ないため、どうしても一人の負担となってしまうところがある。 ・退校19時を声に出していく。
22	若手教員早期育成プログラムや各種校内研修を通して、教師の指導力の向上に努めている。	8	8	
23	学校だよりや学級だより等を通して積極的な情報発信に努めている。	8	10	